

国語プリント No. ()

年 組 番 名前

配布日 月 日 曜

群読の技法

群読には様々な技法があり、それによって表現を豊かにできる。次にあげるのは一例であるが、活用してみよう。

1 ソロ・アンサンブル・コーラス

ソロは一人で読む。ただし、「一人が読む」ではない。順番に一人ずつ読んでもいい。アンサンブルはグループで読む。コーラスは大勢で読む。

2 「+」 漸増法 ぜんぞうほう 前に付け足していく。

a	大きな	a が読む
+ b	大きな	a と b が読む
+ c	大きな	a と b と c が読む
+ d	大きな	a と b と c と d が読む

3 「-」 漸減法 ぜんげんほう

全員	小さな	a と b と c と d が読む
- d	小さな	a と b と c が読む
- c	小さな	a と b が読む
- b	小さな	a だけで読む

4 追いかけて 追いかけて読む

a	ふるふるふるゆきがふる
b	ふるふるふるゆきがふる
c	ふるふるふるゆきがふる
d	ふるふるふるゆきがふる

右のような場合、a が「ふるふる」と読むと、b が「ふるふる」と追いかけて、b が「ふるふる」と読むと c が「ふるふる」と読んでいく。a b c の声が次々に重なっていく。

5 「§」 乱れ読み 声を合わせずにわざとばらばらに読む。

§ 全員 消防車 清掃車 散水車

右の場合、読み手の全員がわざと声をそろえずに読む。読みがばらばらになって乱れるので乱れ読みという。

6 異文平行読み 違う文と一緒に読み進める。

a

b

c

d

--	--	--	--

「こなさる」「こになる」「こくださる」「こなさる」「こになる」「こくださる」
「おなさる」「おになる」「おくださる」「おなさる」「おになる」「おくださる」
「こする」「こいたす」「こいたたく」それに加えて「こもつしあげる」
「おする」「おいたす」「おいたたく」それに加えて「おもつしあげる」

a b c dの三人がいつせいに同時に自分の文を読む。そう読むと、声が混じって何を読んでいるのか分からないが、それでよい。雰囲気を作る読み方。

7 わたりの技法 文を区切って分読み、最後に全員でもう一度、その文を読む。

a

b

c

d

全員

雲から山へ
山から川へ
川から海へ
海から世界へふりそそぐ
雲から山へ 山から川へ 川から海へ 海から世界へふりそそぐ

8 「」 異文重奏 異なる言葉を次々とかぶせて重ねていく読み方。「/」はそこで終了の意味。
(a) ヒヤラリーリ
(b) テレックテン
(c) チャンチキチン
(d) ドロツクドン/

表にすると次のようになる

ヒヤラリーリ	ヒヤラリーリ	ヒヤラリーリ	ヒヤラリーリ
ドロツクドン			
チャンチキチン			
テレックテン			

